

國家經濟より觀たる自動車と道路

三柏商會社長 藤原俊雄

交通の利便を圖ることは文化生活の基礎であつて其の發達は何人も異論の無い所であるが、蒸汽機關の發明以來交通機關といへば海には汽船陸には鐵道を以て唯一最上のもゝとして道路の交通機關としての價値の如きは、永い間世人の注意を惹くに至らなかつた。道路は在つても眞に能率良く之を利用すべき機關なく、纔に人馬の歩行する爲に使用されるに過ぎなかつた。

然るに西曆千九百年、自動車が発明せられて以來、漸くヨリ良き道路の要求が起つて來た。歐洲に於ては早く之に着眼されて國道の鋪裝が行はれた。併しながら當時の道路は主として軍事上の目的に使用されたに過ぎないので、今日の如く國家經濟の立場より觀たる自動車と道路の密接なる關係は、未だ認められなかつたのである。

爾來自動車の實用的價值が明になり、有力なる交通機關としての地歩を占むるに隨つて、道路の必要は倍々痛感せられ、市街區域は勿論國境を貫通するやうな歐洲諸邦の國道が悉く鋪裝せられるに至つた。又米國に於ては二十年前に大西洋沿岸より太平洋沿岸に達する四千哩の國道の改良が企てられ、之をリンコルンの名譽の爲に「リンコルン・ハイウェイ」と名けて、各自動車關係者交通關係の専門家が協力して大いに國民の注目を喚起し、今や稍々其の道路の完成を見るに至つた。之が爲に千九百十年以來米國に於ては百億弗に達する國道建設費を消費して居る最近米國新聞紙の報ずる所に依れば、今後十箇年間に更に百億弗を投じて、各州の道路改良を完成する計畫があるとの事である。

三

何故に斯くも道路の改良が必要を認められるか、蓋し道路は經濟の本義に適つて居るからである。多額の費用を擲つて道路を改良するといふ事は、國家經濟の爲に決して損失でないからである。

我國でも道路の改良といふ事に就て社會の注意を喚起したのは、先年米國の鐵道王ヒル氏が來朝して、險惡なる日本の市街地及び國道の狀態を視て、何故に日本は道路を改良しないのであるか、若し斯の如き道路を此の儘に存置するならば、國民一人に付て一日平均六錢の損失がある、六千萬の人口に就て考へると、國家は日々三百六十萬圓の損失をして居るものであると喝破した事から、朝野の異常なる注意を喚起して、之が道路改良會成立の濫觴を成したと言つても可いのである。

今や鐵道を經營する者、船舶を動かす者、商工業に従事する者、苟も國家經濟の分子となつて居るも

のは、道路と自動車を活用することは免れることの出来ない必須の生活條件となつた。即ち經濟的に投資の利潤を産むが爲に、世界各國は競つて道路の改良に力を盡して居る所以である。

四

世人動もすれば、自動車は鐵道と競争して鐵道會社の收入を減せしめるから、自動車の並行營業を許してはならぬとか、長距離の運輸には鐵道があるから國道などを建設する必要はない、若し必要ありとすれば一朝有事の際の軍事上の必要に止まるといふ如き考へを以て、深く思ひを道路の改良に致さないのが我國の現状であるけれども、事實に於ては今や文化生活の高唱せられ、商工業の殷盛なる現代に於て、距離の遠近を問はず、大道路が貫通して自由に自動車の交通し得るといふ事は、何よりも必要適切であるのである。國家經濟の上から言うても、昔日鐵道の建設を獎勵した如く、今日は道路の擴張と路面の改良とを獎勵しなければならぬ時代である。

米國の如きに於ても、自動車の普及に依つて鐵道の收入が減ずるといふ事實の爲に鐵道經營者が自動車の發達を嫌つた時代もあつたけれども、今は恰も鐵道の敷設に對して人力車營業者が反對したるが如き態度であつて、決して對抗することの出来ない經濟的大勢である。隨つて今日に於ては鐵道會社が自動車を利用して貨物若くは乗客を短距離の間に運んだり、或は非常なる繁華膨脹せる都市に於ては、昔日の停車場が市の不便なる位置に存在する等の事情から鐵道會社が自動車を補助機關として活用して居る。斯くして鐵道と自動車の運輸機關としての協力といふ事が、將來の經濟

的大勢を成すといふ結論に達して居るのである。

蓋し我國に於ても都鄙を通じて此の大勢に抗することは出来ないであらうと思ふ。

五

今吾輩の見聞したる英國倫敦に於ける市街交通機關の狀況を語るならば、往日倫敦市街を濶歩したる乗合馬車は、今や全く自動車トラックの爲に驅逐せられ、最近まで多くの乗客を吸収しつゝ、あつた地下鐵道も、亦二階附乗合自動車の爲に其の乗客を奪はれつゝ、ある現狀である。其の初め自動車が倫敦市中に現はれた時には、人が自動車の先驅として赤い旗を掲げて通行の人及び動物に警戒を與へて走つたといふ時代もあつたが、今や市中の交通機關は自動車が主なるものとなり、經濟的にも引合ふやうになつた。

倫敦市街の交通機關としては、三電車會社と十數の乗合自動車會社があるが、後者は其の最大なるゼネラルバス會社に依つて代表されるので、他の小會社は次第に買收せられ、若くは算ふるに足らないものである。是等の四大交通機關に依つて市中を交通する者は一年約十三億人と稱するが、其の内三電車會社に依つて運ばれるもの八億人、自動車に依る者は一のゼネラルバス會社に依つて運ばれる者が約四億人を算して居る。三會社の電車總數千七百臺に對して、一會社の自動車は四千五百臺殆んど倫敦市街は乗合自動車バスで満ちて居る觀がある。

去つて紐育、市俄古等の乗合自動車の狀況を見ても、全く同じ經路を辿り、同じ經濟の原理に支配さ

れつゝある事は疑ふべくもない。斯の如き大勢より察するも、我日本に於ても、假令何人が反對しても、年と共に自動車の普及發達を見ることは數の免れざる所である。

六

茲に於てか道路の改良は目下の喫緊なる問題となるのである。砂利道路と舗装道路とに於ける自動車のガソリンの消費量の比較の如きは、從來屢々發表せられた事であるが、尙ほ機械の損傷、車臺の汚損より生ずる損失等を考へるならば、舗装道路は實に砂利道路に比して自動車の壽命を三倍の永きに耐へしめる力がある。

昨年吾輩が米國を通過した際、汽車中に於て壯年の一米人の、初めて乗つて見たが、汽車は甚だ不愉快なものであるとの述懐を聞いて、訝しく思つて訊したところ、彼はオレゴン、ワシントン、カリフォルニアの三州を行商して廻る商人であつて、常に自動車にのみ乗用して、全く長距離の汽車に乗つたことがないとの事であつた。

又シアトル、桑港間の汽車中、乗客の少きに不審を懷いて車掌に質したところ、自動車の爲に乗客を奪はれると答へた。自動車は絶えず沿道の市街に接觸して走り、而も汽車の寢臺車料金を以て、裕にホテルの宿料と食費を辨することが出来るとのことで、盛にシアトル、桑港間を乗合自動車が疾驅して居る。勿論乗合自動車とは云ふも、我國に見るが如き窮屈なものではない、長さ五間乃至六間の雄大なる車臺を有し、座席の設備の如きも汽車に劣らないのみか、却つて乗心持が好いのである。

七

是等の事實は何を語るものであらうか。即ち改良せられたる道路が如何に今日の自動車交通を助長發達せしめて居るかといふ事を雄辯に證據立てるものである。自動車は決して道路を損壞するものではない、寧ろ自動車こそ道路を造るものであると謂ふべきである。

八

我國に於ても相當な方策を講じて、先づ速に國道を改良し、以て世界の觀光客を惹付ける方法を考へる事は、一面は國家經濟の上に於て、又一面は文明對等の國際の上に於て、國民の深き考慮を費すべき問題である。

今や歐洲各國の各汽船會社や旅館の代理店は、米國に於て盛んに自動車を用ひて歐洲に遊ばんとを勧誘して居る。其の爲に年々何千臺の自動車が歐洲に運ばれ、斯くして歐洲の小獨立國は國家經濟を利すること大なるものを得て居るのである。

道路の改良事業は、内に産業の發達を助け、外に世界の旅客を吸收し、斯くして國家經濟が進歩し、國民生活が向上して行く事に依つて、初めて吾々は國際上對等の地位を保つことが出来るのである。徒に外交辭禮の巧拙を云々して外交を説くが如き舊思想を去つて、事實に於て我國が世界列強の一たる事を自覺する爲にも、不急なる鐵道を延長するよりは、道路の改良を圖ることが刻下の急務でなければならぬと信ずる。

(完)